

谷口 英喜

神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科 教授

介護現場における入浴介助者の脱水症に関する検討

【目的】本研究では、高齢者福祉現場において入浴介助者に必要な補水量を明らかにし、適切な補水の必要性を提言することを目的とする。

【方法】研究デザインは、観察研究とした。対象者は、介護老人保健施設において入浴介助を実施している職員、合計 17 名（3 施設）とした。各施設において冬・春・夏、計 3 回調査を実施した。調査は、介助業務前後に非侵襲的な評価方法を用い実施した。主評価項目は、推定式より求めた体液喪失量、口腔水分量および尿比重の変化値とし、副評価項目は、消費エネルギー、唾液アミラーゼ値、身体所見とした。

【結果】介助の前後比較において、口腔水分量、血圧で有意な減少、唾液アミラーゼ値で有意な上昇が観察された。体重は減少し（減少率は $0.5 \pm 0.6\%$ ）、体液喪失量は $3.2 \pm 2.3 \text{ ml/kg/h}$ で、活動消費エネルギー量は $1.7 \pm 0.3 \text{ kcal/kg/h}$ であった。

【結論】入浴介助現場における入浴介助業務においては、介助者に軽度の脱水が発生していた。この脱水を補正するのに必要な補水量は、 $3.2 \pm 2.3 \text{ ml/kg/h}$ であった。